

茨中・茨高には勉学に恵まれた環境があり、自分の努力次第によっては6年間で成績を大きく伸ばすことが出来る学校だと私は思います。また、先生方は授業に熱心で、分からないところを分かるまで教えてくださるので安心して勉学に励むことが出来ます。私も実際は、医学部を目指せるほどの実力はありませんでした。しかし、このような恵まれた環境を活用して学力を上げました。希望課外を受けるかどうかは自分の判断で決めた方が良いと思います。少なくとも高校生になってからは、友達が受けるから自分も受けるといった理由で受講するべきではないと思います。なぜなら、希望課外は自分のために受けるのであって、友達と受けるものではないからです。また、友達に誘われて課外を受けるくらいなら、受けている時間を部活や自分の勉強などに充てた方が良いからです。時間を大切にということであれば、私はサッカー部に所属していて、帰ってきてから勉強をしようとしても、疲れていて眠くなってしまい、なかなか自宅学習に力が入りませんでした。そこで私は夜早めに寝て、朝早起きをし、学校の自習室で勉強をすることにしました。この方が自分にとってよりよい勉強習慣となりました。学年が早いうちに自分の学習習慣を作ることができたのは、とても良かったと思います。また、私は塾に通わず学校で勉強をして大学を受験しました。塾の課題や勉強に追われて、自分の勉強のための時間を奪われなくなかったからです。これはあくまで私の意見ですが、塾に行くよりは、良い意味で“学校を利用し尽くす、先生方を利用し尽くす”方が良いと思います。

私は中高ともにサッカー部に所属していました。部活動に入ることによって、私は勉強へのモチベーションを保つことが出来て、そして何より友達を作ることが出来ました。運動部でも文化部でも、何か一つ部活動に所属した方が良いと思います。高2時の研修旅行では、カナダに行き、そこで様々な体験をしました。例えばホームステイは、学校で受ける授業では学べないような、文化やコミュニケーションの取り方を学ぶことが出来ました。1人でホームステイと聞くと不安に思うかもしれませんが、そんなことはありません。ホームステイ先の家族の人たちはとても優しく、接しやすい方ばかりでした。ホームステイは1人または2人で参加することが出来ますが、英語の力をつけたいのならば1人で参加することをおすすめします。文化祭では、同じクラスの友人と協力して、一つのことを成し遂げた時の達成感が印象に残っています。また文化祭を通じて、新しい友達（特に高入生）を作ることが出来ました。このように、文化祭やクラスマッチなどの行事は、新しく友達を作るチャンスでもあったので、とても楽しかったのを覚えています。

茨中・茨高のよいところといえば、英語に触れる機会が多いということだと思います。例えば、エンパワーメントプログラム（海外から同じ年代くらいの生徒を校内に呼んで、ネイティブの英語に接するというプログラム）は英語が好きで、実際に外国の方と話したい生徒にはとても魅力的なプログラムだと思います。このプログラムは夏休みに行われるのですが、参加した生徒は、「受けて良かった。」「実際に海外の方と英語を使って話すことは新鮮で楽しかった。」といていたのを覚えています。また、高校生になってから、週に1回、オンラインでのDMM英会話の授業を受けることとなります。習慣的に実際に海外の方と話すことによって、必ず英語を話す力がつきます。このように、英語を使う機会が多いので、より英語に強くなれると思います。また、医学コースという、毎週土曜日に医学部や医療関係の仕事に就くことを目指す生徒を対象とした講座があります。私もこの講座に参加していました。この講座の良いところは、様々な医療関係者の話を聞くことによって、医療についての知識が高まるだけでなく、医学部やその道を目指すモチベーションにつながると思います。実際に私も参加していました。

今、日本では深刻な医師不足や医師の偏在化が進んでいて、地域によって求められている医療が異なっています。私は大学進学後、医療についての知識の吸収を怠らずに、このような地域によって分かれる医療のニーズを理解しながら、患者さんの痛みに寄り添えるような医師になろうと思っています。また、大学生活の中で様々な実習を重ねることによって、医療における経験を積み、立派な医師になれるよう頑張ろうと思います。茨中・茨高を志望する生徒のみなさんも夢に向かって頑張ってください。